

日米欧は今年の秋までは GDP の減少が続く 中国 GDP はいち早く回復した

多くの人にとっては今回のパンデミックの原因となった中国の経済がすでに明るく立ち上がりつつあり、それに対して日米欧の GDP の減少は秋口まで続くと考えられている。さらに、多くの企業の破産が想定され、この影響を受けて人生計画が大きく変わってしまう人も大量に出てくることだろう。

現在、世界各国の怒りは中国と WHO に向けられている。中国に（戦後）賠償を求めようとする動きが加速しつつあるので、今回のパンデミックは中国対それ以外の国の繰り広げる第 3 次世界大戦へと様相を変えつつある。

「第 3 次世界大戦がどのような形で起こるかはわからないが、第 4 次世界大戦の戦い方は予測できる。それは、棍棒を手にした殴り合いである」 今回のパンデミックの責任所在を明らかにし、賠償責任を追究する過程で、世界情勢に大きな動乱が起こる可能性がある。その過程で、原爆や水爆を凍結する知恵を人類は得ることができるだろうか？

日本経済新聞 2020年(令和2年)5月6日(水曜日)

新常態へ適応力試す

制限緩和でも感染抑止優先 「水面下」経済長期化も

コロナ 出口は見えるか

新型コロナウイルスの感染拡大は世界(3面きょうのこと)は、以米の危機の源に立つ。日本は4日、緊急事態宣言の5月までの延長を決めた。海外では移動制限を録め出口を探る動きもあるが、経済は当面は以前の水準に届かず「水面下」の低空飛行が長く公算が大きい。医療体制の整備などでウイルスへの耐性を高めつつ活力を取り戻す工夫が要る。ニューヨーク(新常態)への適応力が問われる。

新型コロナウイルスの感染者数は世界で300万人を超えた。治療薬やワクチンのおおまか。今は移動制限しかほぼほ押し込めの手立てがない。しかし感染抑止と引き換えに経済の首根っこを揺さぶる「ロックダウン」(都市封鎖)のような対策に頼り続けるわけにはいかない。各国は出口に向けて試行錯誤する。見えてきたのは感染の再拡大を防ぐための封鎖の解除後も人々の生活や経済活動に一定の制約を求める新常態だ。フランスは日に厳し

中国はいち早く回復に向かうが...

中国	日本	米国
<p>生産(前年比増減率)</p> <p>消費</p> <p>新規感染者数(世界保健機関(WHO)の集計)</p> <p>2020年3月6日 - 5月5日</p> <p>【出所】中国国家统计局、工業生産と社会消費品小売総額 【注】中国統計局の発表のある1-2月を一律で除く</p> <p>習近平国家主席 「(新型コロナウイルス)基本的に抑え込んだ」 (3月10日、武漢市視察) ↓ 4月に入って武漢の封鎖解除</p>	<p>消費</p> <p>生産</p> <p>新規感染者数</p> <p>2020年3月5日 - 5月5日</p> <p>【出所】経済産業省、工業生産指数と小売販売総額</p> <p>安倍晋三首相 「感染者の減少が十分なレベルとは言えない」 (5月4日、記者会見) ↓ 緊急事態宣言を5月まで延長</p>	<p>消費</p> <p>生産</p> <p>新規感染者数</p> <p>2020年3月6日 - 5月5日</p> <p>【出所】生産に連関する指標(全FRB)、小売売上高は商務省</p> <p>トランプ大統領 「経済を機能させなければいけない」 (4月16日、記者会見) ↓ 感染者の少ない地域から移動制限緩和へ</p>

い外出制限を解いて小学校などを再開しつつ、米人ほどの感染者が新たに出る米国内も、経済を機能させるには見えない。今(毎日)2万3千人の感染者が新たに確認された。日本は海外のような厳しい封鎖はしていないが、5月6日が期限だった緊急事態宣言の解除は見送った。

だ認めない。イタリアは4日からまず製造業を再開。レストランなどは6月以降となる。日本は海外のような厳しい封鎖はしていないが、5月6日が期限だった緊急事態宣言の解除は見送った。

神戸新聞から記事を二つ引用した。一つ目は「頑張り抜こう」。二つ目は前ページにも関連するが「日本の経済予測にスーパーコンピュータ富岳を利用」である。このシミュレーション過程で、倒産危機に直面する可能性のある企業が具体的にあぶりだされてくるだろうから、日本国政府はそれらの企業にどのように手を差し伸べるかが問われる。「予測は往々にして外れる」が、これは予測された悪い結果を起こさないように努力したためである場合が多い。富岳がその能力を如何なく発揮し、日本政府がそのはじき出された悪い結果を先回りして阻止する。そのようになることを期待している。

神戸新聞 5月6日

壁に浮かぶ赤い十字、「世界赤十字デー」前にライトアップ 人と防災未来センター

<https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202005/0013321972.shtml>

「世界赤十字デー」（8日）を前に、人と防災未来センター（神戸市中央区）で5日夜、外壁に赤い十字のマークを浮かび上がらせるライトアップが始まった。11日まで。今年4月下旬から、新型コロナウイルスの治療に携わる医療従事者に感謝を表す青色のライトアップも行われており、交互に壁面を照らす。



スパコン「富岳」新型コロナの経済打撃予測 100万社分のデータなどで試算

<https://www.kobe-np.co.jp/news/sougou/202005/0013322366.shtml>

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言が延長され、経済へのさらなる打撃が懸念される中、神戸・ポートアイランドに整備中の次世代スーパーコンピュータ「富岳（ふがく）」を活用して国内総生産（GDP）の減少幅を予測する研究が始まった。予測には、東日本大震災を機に作られ、世界でも比類がないという国内約100万社分の取引関係モデルを活用。自治体による休業要請などの判断材料となるよう地域、産業別の試算もするという。5月中の結果公表を目指す。

予測に使うのは、兵庫県立大大学院シミュレーション学研究科の井上寛康准教授らが作った全国の企業取引を計算できるモデル。信用調査会社から提供を受けた約100万社分の500万を超える取引関係データや、東日本大震災直後のGDPの動きなどを基に、富岳の前身のスパコン「京（けい）」で何千回も調整して作り上げたものだ。

井上准教授のモデルによると、日本では一見無関係な企業同士も、大半はわずか5回程度の取引をたどるとつながるほど「関係が密」で、災害などで一部地域の経済活動が止まると瞬く間に影響が広がる特徴がある。仮に東京が1カ月間、都市封鎖されたケースを同モデルで予測したところ、ある条件の下では、都内の影響額9.3兆円に対し、東京以外が約2倍の18.5兆円に上るという試算も出たという。（霍見真一郎）